

# 森 恵美 氏

(高校29回卒)

千葉大学 副理事



## <経歴>

- 1981年 3月 千葉大学看護学部卒業
- 1981年 4月 総合母子保健センター附属愛育病院、助産師
- 1987年 4月 千葉大学院看護学研究科入学
- 1989年 3月 千葉大学院看護学研究科修了、修士（看護学）取得
- 1989年 4月 日本赤十字看護大学助手、1991年より同大学講師
- 1993年 4月 千葉大学看護学部 助教授
- 1994年 3月 博士（医学）取得（山形大学）
- 2000年 4月 千葉大学看護学部教授、2009年4月より千葉大学大学院教授（～現在）
- 2007年 4月 千葉大学看護学部長/看護学研究科長（～2009年3月）
- 2014年 4月 千葉大学副理事（ダイバーシティ推進担当）

## <主な活動内容>

千葉大学卒業後6年間助産師として勤務し、愛育研究所の研究に協力。大学院修了後は助手と並行し山形大学の研究生となり1994年に博士（医学）を取得。1989年から看護学部の母性看護学教育と助産師教育を担当し1993年からは大学院教育も担当。研究領域は不妊看護、母性看護学。2011年2月～2013年度最先端・次世代研究開発支援プログラム（NEXTプログラム）の次世代研究者に選ばれ「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」という研究テーマで大型研究費8,000万円（直接経費）を獲得。この採択直後の3月に東日本大震災が起こり、数々の困難があったが研究グループ内の共同と多方面からのご支援により多くの研究成果を国内外に発表し、社会貢献や人材育成にもつながり研究者としての使命を果たせた事を誇りに思っている。その後も文科省科学研究費基盤研究(A)に3回連続で選定され、現在も初産夫婦の子育て支援の研究中である。

## <受賞歴、メディア実績、発行物等>

平成7年度日本母性衛生学会学術奨励賞受賞(1995)、文部科学省科学研究費補助金審査員表彰(2010)、FIRSTシンポジウム『科学技術が拓く2030年』へのシナリオにおけるNEXライフ・イノベーション・ポスターセッション銅(2014)、(公財)日本医療機能評価機構EBM医療情報(Minds事務局)診療ガイドラインに「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドライン」が選定(2016)、平成28年度日本母性衛生学会学術論文賞受賞(2016)、第13回日本母性看護学会学術論文賞受賞(2019)、Best Poster Presentation Award: Third Place(22nd EAFONS, 2019)、Poster award-3rd place(14th International Family Nursing Conference, 2019)、令和元年度日本母性衛生学会学術論文賞受賞(2019)等

## <高校時代はどんな学生だった？>

特に目立つことがなかった学生だったと思います。運動音痴ですが、何かスポーツサークルに入って身体を動かしたいと思い、バドミントン部に他の4人の女子学生と入部しました。遊びとスポーツのバドミントンの違いを知った体験で、途中からマネージャーのような存在で所属させてもらいました。クラブ活動はかるた同好会に所属しました。

勉強は中間、期末テストに頑張り、2年時はトランプ(ナポレオン、大貧民)に夢中になり、夏は学校帰りに友達と寄り道して甘味店のかき氷を食べながらおしゃべりするのが楽しみでした。背伸びしてコーヒー専門店でウインナーコーヒーを飲んだのも良い思い出です。

## <在校生・卒業生(後輩)へのメッセージ>

私の家は裕福ではなく3人姉妹の長女でしたので、父からの進学必須条件は国立大に現役合格、大学卒業後の就職(社会貢献)でした。高2の進路相談時でも志望大学は決まっておらず、担任の先生からは希望もしていないお茶大は無理だが奈良女なら受かるかなと言われ、ようやく志望大学を自分で考えるようになりました。受験勉強を本格的に始めたのも高3夏休みでかなり出遅れましたが、第1志望の千葉大看護学部に幸運にも入学できました。

この経験と大学教員として多くの学生を育てた経験からの意見ですが、高校時代に大卒後の将来どのような人になりたいのか自分の使命を考え、志望大学を検討することが重要と思います。また、グローバル化が進行した「まさかの時代」だからこそ、次世代の皆様には経済的な制約等でご自分の将来をあきらめないで挑戦していただきたいです。私が今このように教育研究を通して社会に貢献させていただけるのは、家族・親友や恩師・同僚だけでなく、私の人生において有形無形のご支援をいただいた多くの皆様のお陰と思っています。

出会いは人には作れませんので、一期一会を大切にしてくださいね。